

令和4年4月14日

魚沼市議会議長 関 矢 孝 夫 様

産業厚生委員会  
委員長 佐 藤 肇

産業厚生委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 魚沼市内スキー場について  
(2) 行政視察について  
(3) その他
  
- 2 調査の経過 4月14日に委員会を開催し、上記事件について調査を行った。  
魚沼市内スキー場について、執行部から報告を受け、質疑を行い、魚沼市内のスキー場の全体像「グランドデザイン」について承認した。  
行政視察について、今年度における産業厚生委員会の視察計画について協議した。  
その他で、議会の議決に付すべき契約案件について及び国道252号線「あいよし橋」の雪崩による流失した件のその後について、執行部から報告を受け質疑を行った。

## 産業厚生委員会会議録

1 調査事件

(1) 魚沼市内スキー場について

(2) 行政視察について

(3) その他

2 日 時 令和4年4月14日 午前10時

3 場 所 本庁舎3階 委員会室

4 出席委員 佐藤達雄、浅井宏昭、大桃俊彦、富永三千敏、志田 貢、佐藤敏雄、  
渡辺一美、佐藤 肇、高野甲子雄、(関矢孝夫議長)

5 欠席委員 なし

6 説明員 内田市長、武藤産業経済部長、吉田産業経済部副部長、鈴木観光課長

7 書 記 佐藤議会事務局長、大竹主任

8 経 過

開 会 (10:00)

佐藤(肇)委員長 定足数に達しておりますので、ただいまから産業厚生委員会を開会いたします。今日は全員に出席をいただいております。大変ご苦勞様であります。日程に従いまして、会議を進めさせていただきます。

### (1) 魚沼市内スキー場について

佐藤(肇)委員長 日程第1、魚沼市内スキー場についてを議題といたします。まず最初に、スキー場の在り方等について、執行部から説明を求めたいと思います。

内田市長 魚沼市内のスキー場についてということですが、2月の定例会を受けまして、私がランドデザインといいますか全体計画を議員の皆さん、そして市民の皆さん、利用者の皆さんに丁寧に説明をさせていただいてスキー場の存続をしていきます、という答弁をさせていただいているところがございます。そうした中で、今日はランドデザインといいますか全体計画なんですけれどもその説明をさせていただきたいと思っておりますし、その前に私の議会中と同じになるかも分かりませんが、思いをお話させていただきたいというふうに思います。

議員の皆さんが平成30年に調査をし、そして元年の5月にまとめられたアンケートを、

今日朝もう一回見させていただきました。そうした中で、魚沼市にはスキー場は必要ですというのが鑑にも書いてございますし、それは市民の皆さんもそうですけども、議会の皆さんもそういうふうに思っているということは間違いのないというふうに私は思っております。そのアンケートの中で、雪国にスキー場は必要かということで、小学生が95%、中学生が94%、高校生の親97%が必要だということです。市内にスキー場は必要かということで、小学生が86%、中高校生が80%、中高校生の親が94%ということであります。利用するスキー場は、市内か市外かについて、小学生が85%、中学生が80%ということです。スキーをさせたいかという親の問いに関しては、させたいという親が95%、中高校生の親が93%ということで、これを見るとスキーをやる方だけではなくて市民の皆さんがスキー場をいかに思っているか、子供達のために使いたいかということが分かるアンケートだということをもう一回認識をさせていただいたところでございます。

そうした中で魚沼市のスキー場の存在意義と言いますか、これは皆さん言わなくても何回も言っているんで分かると思いますけども、教育、そして郷土愛の醸成、アスリートの育成、友好都市との交流、そして観光ということでもあります。

教育につきましては、昨年小学生についてはスキー授業を6回増やしていただいて、40回開催していただいたということでもあります。しかしながらコロナで何回か中止になったということは聞いておりますけども、その数は聞いておりません。中学校については2回増やして12回ということで、これは全部実施されているということでございます。そういったことで、魚沼市の後期基本計画の中の第2項に郷土愛の醸成をうたっているわけでございますが、県内広しと言えども郷土愛の醸成を総合計画の中でうたっているのはそうないかというふうに思います。そういった中で、地域に開かれた特色のある学校づくりということで、魚沼市の雪国にスキーを通して子供たちの郷土愛の醸成を図っていただける教育があるということは、私はこれからも特色ある学校づくりをしていただきたいというふうに考えているところでございます。

それからもうひとつ、郷土愛の醸成ですけども、頑張る子供たちを応援するということがありますが、今、湯之谷（薬師）には200人の子供と、小出は160人、須原が40人くらい、JRC（レーシング）が40人くらいということで、440人の子供たちが12月から3月まで土曜、日曜、祝日に年間シーズンを通してスキーを滑っている子供たちがいるということでございます。小学生1,400人強でありますけれども、その3割以上の子供たちが学校のスキー授業とは別に、それぞれのスキー場でレッスンをされているということでもあります。小出につきましては、昨年度まで80人くらいだったのが今年は160人ということで、倍の数になっているわけでございます。それは、話を一人一人聞いたわけではございませんけれども、スキー場を盛り上げたいという親の考え方があるというふうに伺っております。そして、JRC、湯之谷JRCというふうになってますけれど、来てる子供たちは市内全域、あるいは市外の方もいらっしゃいますが、その子供たちがまだナイターで練習をしています。そして、皆さんもご承知のとおり、全中もそうですけどもジュニアオリンピックもさることながら、県大会では女子はベスト3であります。その中学3年生、2年生の子供たちを見ながら、小学校中学校の子供たちが県のベスト3の選手を見ながら、そこで練習をしているということでもあります。オリンピックを目指すんだという、はっきりした目標を持っている子供たちでございます。アスリートを育てよう、それを市が応援しよう、それ

は私はやるべきことであるというふうに考えております。

それから今アスリートの育成と言いましたけども、その40人の子供たちは11月から奥只見で練習し、降りてきてクローズ中は地元のスキー場で練習し、ここで今雪が解けるまで練習し、そしてまた奥只見に上って行って練習する。半年間スキーの練習をしている、そういう環境が魚沼市にはあるということは私は誇りでありますし、使うべきだ、支援するべきだというふうに思っております。

それから今度は観光ですが、友好都市との交流があります。今、冬、江戸川区の皆さんがスキー授業に見えております。その他、船橋市の子供たちが何校か来ております。船橋市につきましては、お願いに行けばまだ来てくれると思います。そして昨年、それぞれのスキー場が企業努力によって、小出は30校だったもの、それ以上受けられなかったですが四国から300人の高校生の申込みがありました。しかし、須原もそのとき受けられなかった。300人の2泊3日の高校生が、もし薬師がシングルでなければ、ダブルであれば。小出の皆さんがうちは受けられない、守門にいて受けられない、では薬師さんという話だけどシングルは落ちるからだめだという話の経緯がございます。その300人の高校生が宿泊して3日間やりますと、少なくとも2万2,000円から2万5,000円の費用がかかります。300人ということは、600万から750万のお金が落ちるといことがございます。そういったことが、もし年間5校できれば、3,000万から3,500万、スキー場だけではなく宿泊だとかいろんな食事だとかありますけれども、そういうことを見込まれるということです。夏場の企業努力もさることながら、冬だけでもまだまだ企業努力できるということが私ははっきり分かっておりますので、そういう大手エージェントにどんどん営業に行くべきであるというふうに思っております。それから、スキー場をどうするんだということでもありますけれど、1つ1つのスキー場でやると、今言ったように満杯だから受けられないということがあります。しかしながら、3つのスキー場を魚沼市の1つのスキー場と考え、リフトが7つある、そのそれぞれにスタッフがいる。スキー場と連携を取りながらやれば、一つのスキー場がその日に限り飽和状態ということが三つのスキー場で分散できると、まだまだそういったことで受入れが可能だといことができるかと思います。

そうしたことで、薬師の話をするとうダブルという話になるんですけど、そうではなくて、今年については話を聞くところによりますと子供は受入れられない。従ってプロといひますか、大人を受入れたいということで、新潟県スキー連盟と連携しまして、約600人の方が11日間の累計で来ました。それは、指導員の資格を取る、準指導員の資格を取る、テクニカルの大会をする、そういった大人のプロの方たちであります。その方たちを、連携しておいでいただいたそうであります。しかしながら、リフト待ちの子供たちは2時間の間に2回しか乗れない。そして、おいでいただいたその大会講習に出る方も2回か3回しか乗れない。そこでも県の方は協力をしていただいているということでもあります。それは、土日に受入れられるスキー場がないからで、魚沼市は土日で受入れられる状態があるということで、まだまだ努力ができるということでもあります。

そういったことで、私は魚沼市の3つのスキー場を1つのスキー場として考えて、連携を取り合い、そしてゆくゆくは窓口が1つで受入れられる学校を振り分けられる、そういうことの企業努力といひますか、連携が必要であるというふうに思っておりますし、市はそれにどういう支援ができるかということを積極的に入っていきたいというふうに思っ

ております。

そして最後に、早口ですいませんけども、後ほどグランドデザインというものを担当副部長から話をさせていただきますが、思いがあります。それは、地域の方たちの思いであります。例えば、小出スキー場については、確かに公園管理で委託しておりますけども、きれいにし市民の健康増進にどうやって役立てるか、検討しながら努力しておられます。そこが、冬にスキー場になるわけです。ですので、健康ゾーンあるいはファミリースキー場と申しますか、そういう学校受入れと申しますか、教育と申しますか、そういうところの受入れ。そして須原スキー場については、大会誘致。大会を誘致すると子供を受入れられないという話をされますが、それは別のスキー場で受けてもらえばいいわけです。小出とか薬師で、こっちへおいでください、それで大会は須原でやってもらえばいいわけです。須原の大会のスタッフは、3つのスキー場と協力すればいいわけです。そうやって3つで1つだという考え方にならないと、1つ1つではなかなか大きなスキー場ではないわけですのでクリアできない場面があるので、3つで1つという考え方にさせていただきたい。そういうふうに進めていただきたいと思います。

薬師につきましては、私のことを言うのもなんですが、自分が18歳でスキーを始めて25歳まで小出スキー場にいたんですが、25歳のときにスキー場を作るからスキー学校を作ってくださいということで薬師へ行きました。そうした中で、40年前からあるんですけども20年、30年経つと木が生えてきて、スキー場としてどうなんだということで地域の方たちがチェーンソーを持って山に上がって木を切ってスキー場を整備しました。それ以来、草刈りをやっているわけです。当時60人ぐらいから始まって、70人、80人、90人となって、当時は6時から6時間かけてやっておりました。それがだんだんと暑く、気温が上がるようになって、今はとてもそれができない。また蜂がいっぱいいるからできないということで、朝6時から3時間ぐらいでなんとか終わらせたいということで、また自分のことを言いますが、作業道を作り始めて今こういう状態でできないわけですけどもお若い方たちが20人ぐらいで4日間ぐらいで60本の作業道を作るわけです。そこに120人の中学生から80歳の人たちまで地域の人に来て草刈りをし、何でするかといえば子供たちのためだというふうに私は思っております。当初、40年前に作ったスキー場を何で作ったんだということを地域の方たちはわかっていて、だから80歳の方はこれはもう山には上がれないけど下のほうだけ刈るといって、下の方が萱は長い。大変なんですけども、そうやってボランティアで、何の見返りもなくやってくれるのは子供たちのため、それ1つであります。

ですので、魚沼市は観光もそうありますけども、子供たちの教育だとか、健康増進だとか、地域の方たちが楽しめると申しますか、掘りどころといえますが、話題になる。家族で子供とお年寄りとお親が一つのことと語り合えるのは、私はスキーというか雪の苦勞もそうですが、高齢者の方から30、40の方までわかっていることを、子供たちが一緒になって話をできる唯一のものだと思っております。そういったことで私は、スキー場は必要だということは皆さんがわかっていることなんですけども、そういったことで何とかこれを持続可能なスキー場としてグランドデザインを描き、全体計画を作り、そしてどういう支援、そのために最後の提言書にもあります持続可能なスキー場ということにしていきたいというふうに思っております。そして今まで私が言ったようなことをやるためには、市の現状を踏まえて、ソフト支援もそうですがハード支援、それで無償譲渡ではなく無償貸与

貸付でないと、いくら連携を取って企業努力をしても運営できないという状況はあるわけですので、譲渡ではなく貸付においてスキー場の運営を行っていききたい。そのための条例の整備、要綱の整備をしていかなければならないということで、それは今こうしますということではなくて、まずランドデザインを決めさせていただきたいということであります。

話があっちにいたりこっちにいたりなんですけども、思いとといいますか、お願いとといいますか、話をさせていただきましてこの後ランドデザインを説明させていただきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤（肇）委員長　それでは補足で説明を求めたいと思います。吉田産業経済部副部長。

吉田産業経済部副部長　それでは私のほうから、お手元に配付しております資料に基づきまして、市が考える将来像、ランドデザインについて説明のほうをさせていただきたいと思います。資料2枚をお配りしておりますけれども、1枚目が今ほど市長が申し上げた言葉を形として描いたランドデザイン等々になります。これに基づいて、2枚目の資料のほうは将来のイメージを図式化したものであります。1枚目の資料に基づきまして、私の方から説明をさせていただきたいと思います。（資料「魚沼市内スキー場の今後の在り方について（案）」により説明）

佐藤（肇）委員長　それでは説明が終わりましたので、ここで委員の皆さんから質疑を受けたいと思います。質疑のある方は挙手でお願いをいたします。

浅井委員　この2の運営形態についての中に、3つの経営体を将来的に統合一本化できるように支援するというのがありますけれども、これは1つの会社を作って3つのスキー場を経営していく、そういう考え方でいいですか。

吉田産業経済部副部長　将来的には、そこで魚沼の1つのスキー場という考え方の中で効率的な運営していくためには、組織もある程度一本化した中で運営していくという部分がやはりこれからの経費削減、効率的な安定的な運営を図る上でも重要なことだと考えております。そこに向けては、現時点で行くということは申し上げられませんが、近い将来の統合に向けて市として事業者と協議を進めてまいりたいということであります。

浅井委員　今、私が言った内容というのは、各スキー場には大体伝わっているということですか。

吉田産業経済部副部長　支配人の方々には、この案については事前に説明のほうをさせていただきまして、具体的な事業者間との協議というものはまたこれから継続して進めていくということであります。

浅井委員　最後に、支配人のほうにはその話が伝わっているということで、各スキー場の反応というのはどうでしたか。

吉田産業経済部副部長　まだ事務局レベルの話という形になり、実際にその運営事業者全体での意見という部分はこれから交換するという形になりますので、これから協議を進めていきたいということでございます。

佐藤（肇）委員長　ほかにございませんか。

佐藤（達）委員　魚沼市のスキー場の今までの経緯から見ますと、当初は平成20年ですね。スキー場を1つにまとめるという案がありましたけれども、それはなかなか結果的には合

議が得られませんでした。その一つのスキー場にしたいということには、スキー客の減少があるという認識があったかと思うんですけども、ただその認識というのは今は違ってきているんじゃないかなという気がしています。私は今年の冬4回ほどスキー場に行きまして滑ったんですけども、そういう中でスキー客がかなり多くなっているんじゃないかと。須原のスキー場、4人乗りのリフトのところへ行きましても、行ってすぐ滑れるかというところではないですね。ちょっと待たないといけない。それくらいやっばり来ています。若い人も年配者の方も来ていまして、スキー客は今戻ってきつつあるんじゃないかなという気が本当にしているんです。そういう中でまた先ほどのグランドデザインというのが出て、これは市のほうからも積極的に対外的にいろいろ働きかけ誘客を行って、その中でもっともっと勢力を増やしてということだと思うんですけども、市のほうではそういった努力はこれから本当に大事だと思います。その前段で、今のスキー客のほう、現状のほう、市のほうではどんなふうに把握されているのでしょうか。私は戻りつつあるんじゃないかなと見ています。こういったコロナ禍でありまして、各スキー場の入り込み数が去年よりか今年は増えているということがあると思いますし、その点についてはどういうふうに見ておられるのでしょうか。

佐藤（肇）委員長 前回の委員会で、2月までの報告はいただいているかと思います。年間を通してということで、その辺について答弁をお願いいたします。

吉田産業経済部副部長 実際のスキー客の入り込み客数については、具体的な数字という形になりますので、観光課長のほうから答弁をさせていただきます。

鈴木観光課長 3月末までで、それぞれのスキー場の皆さんのほうから入り込み客数について報告をいただいております。そういった形の中で数字のほうは把握しておりまして、令和3年シーズンといいますか。3月までの累計としまして、3つのスキー場の合計になります。全部で7万1,140名の方々から3カ所のスキー場をご利用いただいていると。参考までに、令和2年度が6万6,570名。参考値として、コロナ前、平成30年が7万1,495名というようなことで、コロナ前の数字に近い状態で令和3年シーズンのほうは終了しているということでもあります。スキー各事業所の営業努力というのは当然のことですけども、もう一方で先般も産業厚生委員会のほうでもお話をさせていただきましたが、県であったり市のほうも含めまして、様々な誘客のキャンペーン、コロナ禍の臨時対策というところも大きくこの数字の部分で反映しているところではあると思っています。この辺のキャンペーン終了後のシーズンからどういう形になってくるのか、注視をするべきところであろうと思いますし、当然行政としての営業活動もしっかり力を入れていきたいというふう考えています。以上です。

佐藤（達）委員 そうしますと、平成30年が約7万1千人で、この前の冬のシーズンですけども、7万1千人にほぼ回復しているということかと思えます。ただこのシーズンはこういったコロナ禍で1月は非常に好調だったんですけども、2月になってかなり予約をキャンセルしたというところも多いという風に聞いているんです。ですので、このコロナのほうで回復し通常の運営ができるようになれば、まだまだ7万1千人からさらにもっともっと増やしていけるんじゃないかというふうに見ておりますけれども、いかがでしょうか。

吉田産業経済部副部長 そうですね。3つの運営事業者がおりますけれども、それぞれやはり

企業努力されて営業活動もされております。今回コロナという感染禍の中ではありますけれども、当然その中で今までやってきた営業努力、営業活動、そういったものがやはり数字としてあらわれているという部分があるかと思っておりますので、今後につきましてもある程度、先ほどもそのゾーン分けするときに各スキー場それぞれ特色があるというふうに説明申し上げましたけれども、それぞれの特色を活かした誘致活動、誘客活動を行う中で、ある一定程度の誘客という部分は見込めるのではないかというふうに考えております。

佐藤（肇）委員長　佐藤達雄委員、先ほど市長ならびに課長から説明があったことに対しての質疑がもしあったら、そちらをお願いしたいと思います。

佐藤（達）委員　そうしますと、スキー場のほうを今までの議論の中には3つをさらに絞ってというような話も私の耳には聞こえていたんですけども、今の市長のほうのグランドデザイン。こういったところでは、各スキー場の特色をそれぞれ活かして連携しながらということで、例えば須原スキー場のほうでは大会があると子供たち、小学生たちのいろいろなレッスンですとかスキー学校ですとかそういったところを受けかねるという状態になってくるところから、須原スキー場ではそういった子供たちの受入れができないという状況がありました。この連携をすればそういったスキー客の受入れもできるし、運営形態のほうも先ほど話がありましたように、改善していけるということかと思っております。それで、広域的運営ということで、将来的には一つの会社にするのか、会社のような形態にするのかわかりませんが、私はそういうふうにしていくのは少し時間をかけて、事業者の運営していく中で事業者のほうでその年々でいろいろ実績をふまえながらいい形態に持っていくということが必要かなと思います。そういう理想的な形態に持っていく時間軸といいますか、どれくらいかけていくのか、そういったところはどんなふうに見ておりますでしょうか。

内田市長　スキー場を減らす議論はしていません。減らすのではなくて、それぞれの特色を生かしてそれで売上げを伸ばすといえますか、利用客を増やすといえますか、そういう形に持っていくには連携をしていただきたいという話をさせていただいています。明日すぐ一つになれなんて言ったってできる話ではありませんので、まず連携を取っていただいて、どういう形がいいのかというのを事業者にもあるわけですので、こっちだけでこうしろああしろはいかないと思いますので、そこは協議の中で話を進めながらきちんと進めていければいいということだというふうに思います。

佐藤（達）委員　私もそういう方向で、是非進めていただきたいと思っております。索道のほうの管理、こういったところも今まで3つの事業所でばらばらにやっていたところを1つの運営会社というか、運営事業部門を設けて一括してやればだんだんと自前でできる、そういう内政化といえますか、そういったところがどんどん広がってくるというふうに思いますので、今までかかっていた維持修繕がかなり減らしていくことができるというふうに感じます。ただ、現状の3スキー場の中で、そういうある程度の内政力、自分のところで修理する、そういった力を持っているスキー場と、やはりそうではなくてほとんどメーカーのほうに依存している事業者があるということからしますと、それを一本にしていくというのはかなりやっぱり時間的な年数が必要かなという気がしますが、いかがでしょうか。

佐藤（肇）委員長　今のはとりあえず整理させてもらって、要はその索道の管理等について、



今後の考え方をどういうふうに持っていつているのか。ここでは先ほど説明いただきましたけれども、会社にするにしてもその管理会社だけにするとか、いろんなそういう手順というのがあるんだろうと思います。もしも必要なら休憩を取りますが、相手があることで、そういったイメージ、今当局が考えておられるその辺の話をしていただければと思うのですが、どうでしょうか。

武藤産業経済部長 休憩をお願いしたいのですが。

佐藤（肇）委員長 それでは、しばらくの間、休憩といたします。

休 憩（10：41）

（休憩中に懇談的に意見交換）

再 開（10：43）

佐藤（肇）委員長 休憩を解いて、会議を再開いたします。渡辺一美委員。

渡辺委員 先ほど市長のほうからスキー授業の方もかなり多くなったというお話を聞かせていただきました。小学校のほうで40回という、この40回は各学校で40回だったのか。それとも全体を通して40回だったのか。また、平均ですけれども週何回のスキー授業ができたのか。同じように、中学校のほうもどのような回数だったのかというところを教えていただけたらと思います。

内田市長 資料を教育委員会からいただいたんですけれども、合計しか頭に入れてないで、個々のものがないんですけれど、40回と12回で、去年は34回と10回ということで、全体での数字であります。個々の小学校が平均して何回ということではなくて、学校によってばらつきがあります。

渡辺委員 教育委員会とも努力していただいているのは分かるんですけれども、私たち平成30年のときにアンケートを取りました。市長のほうからは90%以上の方たちがスキー場が魚沼市に必要なというふうに言っているということですが、あれは市長も分かっていると思うんですが、そこだけ取り出せば確かに90%ですけれども、学校の通わせる親御さんたちですよね。親御さんたちは子供たちが必要だと言っているのであって、決して市内全体の方たちが90%魚沼市が必要だと言っているわけではございません。先般、議会のほうに匿名ではありましたが、今回の修正案可決につきまして、茶番劇だというようなお話がありました。要は、一旦は削減して可決したとしても、もう補正ありきなのではないかと。そしてまた民営化したスキー場にどれだけお金をかければ気が済むんだというような厳しいお声でした。たった一人の意見だと思いますけれども、私は同じように考えている方たちがたくさんいらっしゃるというふうに考えています。

これが私の意見だというふうに思わないでください。私もスキー場は必要だと思っている1人です。ただ、魚沼市民全体の皆さんの中から見たらこういう意見のほうももしかしたら圧倒的に多いのかもしれない、というふうに私たちはまず思わなければいけないと思っております。そういう意味で、ここに今1つの魚沼市スキー場という言葉が出てくると、またここに技術者の育成による直営化という言葉が出てくると、住民はまた直営になるのかとか、先程の意見ですけれどもどれだけスキー場にお金をかければ気が済むんだという話になってくると思います。

21年のときに、須原スキー場一本にすると言ったときに、議会も反対しました。住民も反対しました。そして、民営化することによって、本当にたくさんの誘客をしてくれるように皆さんが努力して下さっていますので、そこは評価しますけれども、やはり私たち議会は一本化するなりして、そして無償譲渡が基本でした。ここで市長が無償貸与にしなければいけないというところの理由は、はっきりと私はあくまで聞かせてもらっていないのですけれども、その辺りはどういう理由で無償貸与にならなきゃいけないんでしょうか。

内田市長　最初に90何%と言ったのは、当時取ったアンケートの子供とか親とかと言いましたので、魚沼市の全体がそうだという話はしてないつもりですので、そこはわかっていただと思いますし、無償譲渡で今経営をいくら努力しても私はできないというふうに思っています。市が貸与し、貸し付けした中で経営を努力していただいて、そうやって市が持ち出すものを今まで、例えば小出であれば70年の歴史がある、須原であれば60年の歴史がある、薬師は41年の歴史がある中で、今まで町営村営でやってきたものに対してお金をそのときは入れたわけですけれども、そうではなくて企業努力をした中で市の財政支出等といいますか、それを圧縮していく努力をきちんとやっていただかなくてはなりません。そこを、監視という言い方はあれですけども、常に事業所と連携連絡を取りながら見ていかなければならないと思いますけれども、どうしてそこに投資をしなければならないのかということの、スキー場の存在意義が私は大事だろうというふうに思います。

全く比較にならないかもしれませんが、小出郷文化会館、議会のときも私は言いましたけども、子供がコンセプトです。条例とかそういうことでお金をかけて子供たちの感性を磨く、文化芸術をやるというふうになってます。これもまた考え方は違うというかも分かりませんが、いろんな体育館、掘体ですとか、野球場ですとか、それぞれ全く関係ない方もいらっしやいます。いらっしやいますけども、そこに条例を作って投資をして、市民の健康増進に役立てていただいたり、コミュニケーションを図っていただいているわけで、それとスキー場は違うということは私はないのではないかと思います。このままでは譲渡はできない、けどもっと企業努力できる。なので、そこと一緒に進めていきたい、いかなければならないというのが私の信念というか、考え方であります。

渡辺委員　私は、市長が今ほど、市のかける予算ですね。それを圧縮の方向でとおっしゃいましたけれど、私はスキーをするためのお金としては圧縮する必要は全くないと思っています。それは、事業所に出すお金としては違いますけれども、事業者にお金を出すのではなくて、しっかりと福祉ですとか教育ですとか、そういったところにお金をかけることによってそれが事業所に回っていく仕組みを作らなきゃいけないんです。そのところの計算もしないで従来通りのやり方でやっていくということについては、やはり違うと思っています。これからは官民連携で、この魚沼市にとって必要なスポーツ文化、そしてまた教育、こういったことに対してはしっかりと官民連携でお金を入れていくし、そこには市のお金も当然投入されます。しかし、それは事業者にお金を投入するのではなくて、利用される方々にお金を投入していくという考え方になっていくべきだというふうに思っております。先ほど、文化会館の話もありましたが、文化会館は直営後、指定管理者制度になりましたが、他のところは、例えば施設を運営するのは民間ですよ。財団とかそういうところがやります。ただし、例えば子供たちがそこで何かをするとかと言ったときにはもう全額市がお金を出すとか、子供が見るものについて無料で見てもらい、その代わり何百万、

何千万というお金を当然子供たちのために、チケット代やあるいは一緒に見に行く親御さんたちであれば半分助成しますよとか、利用する方々への投入という形で今はやっているところが多いです。魚沼市のように、全額そこにいる方たちのお給料から何から市がお金を出すのではないんですよ。そこにお給料を出すことではなくて、住民が使うほうに市がお金を出して、そしてそれがこちらの方たちのお給料になっていくという仕組みをこれから作らなきゃいけないという話を、何度もさせていただいているんですけど、そういった検討はなさっていますでしょうか。

武藤産業経済部長 渡辺委員のおっしゃられる部分はよく分かりますし、今までもそうしてまいりましたし、今後を進めてまいりたいという考えです。先ほど佐藤達雄委員のお話でもありましたが、観光庁が今年取りまとめた1月までのスキー場の利用については、コロナ禍もあって全国的に伸びました。まだ正確には分析されてないんですけども、レジャーとしてのスキー場の利用客は落ちています。ただやはり健康ですとかスポーツ、そういう部分での利用というのはベースとしてしっかりあるということが報告されておりますので、やはり今後この7本の索道を考えていくときには、魚沼市民の皆様にご利用いただいて喜んでいただく。また、その利活用によって健康を維持していただく等の部分をメインとして、当然外貨の獲得も必要ですけども、そういう部分をしっかりと確保しながらやはりスキー場運営については行っていくべきだと考えております。要するに、渡辺一美委員がおっしゃる通り、わかりやすく言えば市の除雪と同じです。直接的には除雪事業者には投資しているんですが、それは実際はそうではなくて、市民の皆様のお経済活動等に寄与していると、そのような観点でいくことは大変重要であると考えています。

渡辺委員 除雪のほうを例に出されますと、ちょっとこれは違うかなという気がしますので、そのところはあれですが、休憩にさせていただきたいんですけどいいですか。

佐藤（肇）委員長 それではしばらくの間、休憩といたします。

休 憩（10：55）

（休憩中に懇談的に意見交換）

再 開（11：03）

佐藤（肇）委員長 今のはご意見として承って、ここで1時間ちょっと経過しました。換気を含めて休憩を取りたいと思います。

休 憩（11：03）

再 開（11：14）

佐藤（肇）委員長 それでは休憩を解き、会議を再開いたします。

富永委員 今日この示された全体計画は、大まかにはよろしいかと思っています。議会のほうで提言書を提出しましたけども、その中の1つで一本化という表現には記載をしておきましたけども、それが示してございますのでこれに沿って民営化を目指していくということがいいかと思っていますけども、先ほど吉田副部長さんは時間的な計画のことは示され

ないというふうなことを言われました。昨年の4月に、シーズン開始前に施設をメンテナンスして事業所に貸し出すというその期限が切れるときに、無償貸付ということで2年の延長を議会で議決しています。ですので、可能な限り急いでもう1年の間にきちんと市民にも説明のできる内容、計画、これをつくるべきだと思います。あわせて、投資をする、支援する根拠となる条例要綱等も早急に策定するべきだと思います。時間は言えないと言われましたが、このときまでにはしたいというのを聞かせてもらいたいと思います。

吉田産業経済部副部長　先ほど私は具体的な期限を申し上げられないとは言いましたけれども、委員お見込みのとおり、スキー場への無償貸付の期限は2年間ということで今年度末がその期限となっております。当然そこに向けて市としても全体計画を練り上げ、市民の皆様、それと議会のほうからもご理解いただいた計画に仕上げ、その後に関後の方針をどうすべきかという結論を出す時期というのはリミットがございますので、当然そこをめぐってスピード感をもって取り組んでいきたいというふうに思っております。ただ極力早く、その辺も含めて市として練り上げていきたいということではあるんですが、時期については明言はできないということでございます。ただ、先ほど言ったようにリミットがございますので、そこに向けてしっかり取り組ませていただきます。

富永委員　では、その1年というリミットの中でやっていただくように意見をしておきます。

高野委員　先ほど渡辺委員から休憩中ということでかなり長く発言がありました。非常に運営系の根幹に関わる質疑もされておりますので、休憩中ということでもしっかりと議事録を残していただきたいというふうに思います。

佐藤（肇）委員長　今ほどの意見ですが、休憩を取ってくれという中での発言でありますので、そのようにさせていただきたいと思います。

渡辺委員　私がこの案について、市長の思いのほうに先にいっぱい入ってきてしまったので、この案になかなか賛成できないというような発言をしてしまったんですけども、この案をしっかりと読めば、市長の言った無償貸与の話も入ってませんし、そういったことは一切なく、これを正確に読めば要するに3つのスキー場を将来的に一本化して、また一本化したスキー場の中で一生懸命企業努力をしていただいて、この魚沼市のスキー場を盛り立てていきたいという案だと思います。そういうことであれば、先ほど富永委員からも話がありましたけど、議会側から出しているそのことに沿っております。無償貸与にするのか無償譲渡にするのか、そこは今後の話だというふうに受け止めて、この案については賛成したいと思います。

佐藤（肇）委員長　他にございませんか。（なし）ないようですので、本件のことについてここまでの質疑については終わりたいと思います。今ほど、この方針の在り方について、グランドデザインについてということで、執行部の方から仕事を進める前段だというお話をいただいております。本委員会として、今ほどお示しをいただきましたグランドデザイン、これによって今後実務的な作業がたくさんございます。そういったものに作業を進めていくということで、それを承認をしたいと思います。これについて異議はございませんか。

佐藤（達）委員　最初の市長からのお話の中で、市のほうとしては無償貸付を考えおります、というお話があったわけですけども、私もその方向で進むべきだと考えているのですが、そのところはどのような条件なのでしょう。

佐藤（肇）委員長　ここには書いてありません。

佐藤（達）委員 これからの協議ということによろしいわけですね。

佐藤（肇）委員長 そうです。では、元へ戻ります。今ほど当局から示されたグランドデザインについて、これを進めていただきたいということで、ご異議はございませんか。（なし）異議なしと認めます。よってそのように今後の作業を、期限が限られているということでもありますので、よろしく願いをしたいと思います。他に、これに関連して当局からありましたら、それを先にしたいと思います。ございませんか。

内田市長 意見等はございませんけれども、グランドデザインをご承認いただいたということで、今後の総合計画、全体計画に向けて、それこそスピーディーに作り、また皆さんにお諮りしながら進めてまいりたいというふうに思います。3つのスキー場が1つの経営体となって、人、物、心、外貨、これを動かしていくことだと思っておりますので、その辺に向かって進めていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

佐藤（肇）委員長 それでは、日程が次あるんですが、委員会の日程を設定して予定を段取りたいと思います。私の案でありますと、4月の25、26日辺りがいかがかと。非常にタイトでありますけれども、これができる、これができないでもいいですので、やりたいと思います。もう1点は、これは考えなんです、事業者さんからのご意見もどこかで聞く機会を儲けさせていただきたいと思っております。これだけ5月中にできれば、検討したいと考えております。さしあたって次回の委員会ということで、連休前に何とかお願いをしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。事務局を通してまた調整をさせていただきたいと思っておりますが、よろしいですか。

それでは、そのように進めさせていただきます。それでは市長、他に何かありませんか。

内田市長 特にありません。

佐藤（肇）委員長 委員の皆さんから、執行部に対して何かありますか。

佐藤（達）委員 これからスキー場のほうの予算と目標を検討されていきますけれど、根拠となる条例というのが、先ほど市のほうに投げるというお話があったんですけども、それをもっと議員のほうでも、スポーツ議員連盟があるわけですので、議員サイドのほうでももっと積極的に練っていく。

佐藤（肇）委員長 今の、索道をどうするのかとか、品物の管理を含めて、今まであったスキー場条例をなくしたので、それに代わる部分ということで今回はないので、全体のスポーツの条例とはまた違う。

佐藤（達）委員 そういう事務的なことをするための必要な条例という意味合いですか。

佐藤（肇）委員長 そうです。その作業を進めていきます。他にございませんか。

吉田産業経済部副部長 私のほうから一点、お知らせのほうをお願いしたいと思います。既に議員の皆様も、もしかしたら記事をご覧になっているかと思うんですけども、今朝の新潟日報の経済面に、データセンターの候補地として経産省が今月の12日に本県、魚沼市を含めまして3カ所のデータセンター候補地を公表いたしました。経過としまして、いろいろ国のほうがこれからDXの推進、それとデジタル田園都市、それを進める中で、日本全国、特に日本海側にデータセンターの拠点となる部分がないということで、いろいろと日本全国の候補地となるべく自治体と県と意見交換を交わした中で、その候補地を事業者を紹介をしていいという、その自治体から上がってきたデータを今回12日に経産省のほうが一斉にプレスリリースをしたという内容でございます。ただ、現時点で一応市として、

データセンターに最適な候補地はここではないかと提供はさせていただいているところではあるんですが、条件としてまだ何も具体的に交渉も含めて用地の獲得も含めて、何らまだ決まっていない状況です。ただ市としては、ここがいいのではないかとという程度で、情報を広く全国の事業者にお示ししているという状況であります。今後、事業者から直接私どもの方に問い合わせが来れば、その際にいろいろ条件面ですとかそういう整理をしつつ、候補地としてまた立地として事業者側が選択していただけるようであれば、その後スピード感を持ってデータセンターの誘致に向けた取り組みをしていきたいということです。現時点ではまだ何も決まってない中で、一つ候補地をあげさせていただいたということで、ご理解いただければと思います。私からは以上です。

大桃委員 データセンター、本当に一歩も二歩も前進かとは思いますが、これからが大変なわけなので。立地する場所、岩盤が強いということもあります。雪冷却も可能だと、条件は全て揃っているということであると思います。これはもう1年前に国が示した問題であって、太平洋側の大阪や東京ばかりじゃなくて日本海側にということでありますので、これは南魚沼市も手を挙げているでしょうし、阿賀町も手を挙げていることですので、是非その辺のところをアピールしながら、魚沼市の将来に絶対これは必要な形だと思っていますので、頑張ってください成功させていただきたいということを強くお願いさせていただきます。

佐藤（肇）委員長 では、本件については、また話が進みましたらご報告をいただきたいと思います。では以上で、市長からは退席をしていただくことにしたいと思います。しばらくの間、休憩します。

休 憩（11：30）

（市長退席）

再 開（11：31）

### （3）その他

- ・ 議会の議決に付すべき契約案件について
- ・ 国道252号線「あいよし橋」の雪崩による流失した件のその後の報告について

佐藤（肇）委員長 それでは休憩を解き、会議を再開いたします。日程の一部を変更して、その他を先にしたいと思います。ご異議ありませんか。（なし） それでは、日程第3、その他を議題といたします。執行部から報告等ございましたらお願いします。

武藤産業経済部長 それではお時間をいただきまして、私から口頭で2件ご報告をさせていただきます。

まず1件目でございますが、内容につきましては、議会の議決に付すべき契約案件についてでございます。こちらにつきましては、産業経済部、例えば5件の議決案件を予定しております。内訳としましては1億5千万円以上の工事案件としまして、四日町の内水対策、こちらに関連する工事が2件、これは内容的には雨水の環境工事が1件とポンプ場の建物の建築にかかりたいということで、その大型工事案件を2件予定しております。またその他、2千万円以上の財産取得案件としまして、ロータリー除雪車2台、それから除雪

ドーザー1台をそれぞれ議決案件として、ただ今入札の準備に入っているところでございます。四日町の内水対策の管渠の工事につきましては、繰越案件ということで3月末に仮契約はされておりますが、それも含めまして5月にその他の4件については入札を執行したいと思っておりますので、6月定例会には上程させていただきたいと考えておりますので、よろしくご審議をお願いを申し上げます。

それから2件目としまして、こちらは雪害関係でございます。以前ご報告させていただきました国道252号線、福島県側のあいよし橋が流出したという件で、つい先日、2日前です、ね、福島県の土木部からその後の状況について連絡がありましたのでご報告をさせていただきます。まずもっと除雪の状況でございますが、まず新潟県側からは県境手前7キロぐらいのところまでは新潟県のほうで除雪が完了しております。それから福島県側につきましては、県境から2キロの今回流れたあいよし橋までは除雪が到達しました。1車線ですが、除雪が到達しております。その中で流れた橋の状況と迂回路を使おうという部分についても、今除雪が終わって調査してすぐ使えるかどうかの検討に入っているということでございます。ここまではよかったんですが、実はその流れましたあいよし橋の手前に、200メートルぐらいのところにもう一本橋梁がかかっておりまして、そちらが、であい橋という名前なんですが、こちらは何ともないと上空からは確認していたんですが、実際除雪をしてみても下にもぐってみたら雪崩の影響で鋼製の2メートル以上の橋桁が曲がっております。ものすごい雪崩の力だったと、こういう状況が判明をしましたので、あいよし橋も含めて福島県土木部では早急に渡ることが可能かどうかの調査を開始するそうです。一般的に私の私見ですと、橋桁が曲がっているということは上部の荷重に恐れがありますので、その辺もまだ何も申し上げられませんが、土木部の方では重大案件ということで今後真剣に調査をするということが2日前に連絡が入りましたので、ここでご報告をさせていただきますということでございます。以上になります。

佐藤（肇）委員長　本件について、何か委員の皆さんからありますか。（なし）委員の皆さんから当局に何かありませんか。（なし）なければ、その他についてはこれで終わりたいと思います。執行部からは退席をしていただきたいと思います。

休　　憩（11：34）

（執行部退席）

再　　開（11：35）

## （2）行政視察について

佐藤（肇）委員長　それでは休憩を解き、会議を再開いたします。日程第2、行政視察についてを議題といたします。行政視察につきまして、令和4年度については全員協議会におきまして各常任委員会で実施をするということで決めていただいております。産業厚生委員会におきまして、今年度の行政視察について計画をさせていただきたいと思っております。なお、方面と時期等について全く腹案を持っておりません。ですので、委員の皆さんからそれぞれご意見、またこういったところを勉強したいという、そういったところを出していただいて後ほど調整をさせていただきたいというふうに考えておりますが、その辺の意見

をいただきたいと思いますのでしばらくの間休憩します。

休 憩 (11:36)

(休憩中に懇談的に意見交換)

再 開 (11:40)

佐藤(肇)委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。それでは行政視察については、4月25日の朝8時まで、それぞれ委員の皆さんから要望意見等を出していただくということで、それを取りまとめ次回の委員会にさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。(異議なし)ではそのようにさせていただきます。他にございませんか。

佐藤(敏)委員 先ほど、次回の委員会という話でしたが、ここで調整はできますか。

佐藤(肇)委員長 26日くらいになるのではないかと思います。まだ当局とも調整もしていないんですが、25、26日という話をしたんですが、では、25日の午後1時半に予定します。調整を事務局のほうでしていただきたいと思います。他にないですか。

佐藤(達)委員 25日の内容なんですけれど、スキー場の関係でしょうか。

佐藤(肇)委員長 25日の委員会の中身ですか。

佐藤(達)委員 はい。

佐藤(肇)委員長 それこそ、今日投げかけたのでまとまる話もあるだろうし、まとまらない話もあるだろうし、報告事項が出てくればそれにもよります。なお、先ほどお願いしたけども、スキー事業者との懇談をどうするかだとか、それから今回は産業経済部しか出ていません。市民福祉部のほうもいろいろありますので、そういったものを含めて委員会になると思いますので、ちゃんと通知はさせていただきますので、よろしく願いいたします。

本日の会議録の調整については、委員長に一任をお願いいたします。これで本日の産業厚生委員会を閉会します。

閉 会 (11:43)